



霧はどんな種類があるの

水蒸気が冷やされてできる

霧は、小さな水のつぶが、たくさん集まってできているものです。

空気中には、水蒸気がふくまれています。地表近くの気温が下がると、空気中の水蒸気が冷やされて小さな水のつぶになって、空気中にうかびます。これが霧です。

小さな水のつぶが、空の高い所にうかんでいるものを雲、地表近くの低い所にうかんでいるものを霧とよんでいます。

霧のでき方はいろいろある

霧のでき方にはいろいろありますが、いくつかの例をあげて説明します。

川の上などに、霧がかかっているのを見かけることがあります。川にかかる霧は、水温の高い川の水から蒸発した水蒸気が、まわりの冷たい空気に冷やされてできたもので、蒸発霧といえます。

夜間に地面が熱を放射して冷えると、地表近くの空気も冷やされます。この空気中にふくまれていた水蒸気が冷やされて、霧になります。このようにしてできる霧を、放射霧といえます。

水蒸気をたくさんふくんだ空気が、冷たい海の上などに流れてくるときに、海の水によって水蒸気が下から冷やされて、霧ができます。これを移流霧といえます。オホーツク海などでよく見られる霧です。（監修・村山 貢司）

